

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400477	
法人名	有限会社しらゆり	
事業所名	グループホームしおさい 風の詩	
所在地	いわき市久ノ浜町西2丁目7-8	
自己評価作成日	平成23年10月26日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉ネットワーク	
所在地	いわき市錦町大島2番地	
訪問調査日	平成23年11月10日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に笑顔で、利用者が安心してリラックスできる雰囲気と環境を配慮している。また、利用者一人一人のニーズに応えられるよう、常に寄り添い、共に生活している意識で支援に取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・一人ひとりの思いや意向を把握して常にベストの介護が出来るよう職員全員で取り組んでいる。  
 ・医療機関との24時間連絡体制と随時の往診体制が整えられており、安心して生活できるよう支援している。  
 ・職員と管理者の信頼関係がよく、職員の意見を積極的に取り入れる姿勢がみられる。同時に職員は提案型の意見が多い。  
 ・震災時に職員の自主的な判断で、迅速な避難が出来たことが、日常の業務の自主性につながっている。

## . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごさせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>出勤時に、事業所理念を、再確認の意味を込めて音読み、現場に入るようにしている。</p>	<p>職員全員で作り上げた理念を、職員一人ひとりが積極的に受け入れている。出勤時、事務室で音読み、管理者と確認しあっている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>回覧板を持ってくる区長さんとお話をしたり、記事を読んだりして、地域の行事に関心を持ったり、参加する意欲をもって貰えるようにしている。</p>	<p>町主催の花火大会に参加して、地域の人たちがグループホームのテラスで花火を觀賞し、ふれあいを図っている。区長の呼びかけで集落のお祭りに参加し交流を深めている。</p>	<p>地区の防災訓練に参加することで、これまで以上に地域との連携がとれるよう期待したい。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>未だ十分ではないが、見学に来られた方等に、適切な説明ができるよう配慮している。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>評価への取り組みは未だ無いが、活動報告に対して幅広く意見やアドバイスをもらい、実践につなげている。地区の防災訓練への参加等も検討している。</p>	<p>ホームと地域との係わりの活動報告や入居状況窓を継続して伝え、意見やアドバイスを受けている。看護師も参加し、医療情報を提供して貰っている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>特に震災後、いろいろと連絡を取り合いましたが、なかなか迅速な対応がしてもらえず、今後さらに協力関係を構築できるよう努力したい</p>	<p>震災前は包括支援センターを通して市にグループホームの状況などを継続して伝えていた。震災後は避難などもあり十分な連携はないが、提供された研修などには参加している。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>出入口は施錠せず、居室の窓も自由に開閉してもらっている。その他、身体拘束の具体的な事例等を、カンファランス時に話し合い、拘束につながらない介護方法を検討している。</p>	<p>入居者本人から、夜間にベッドから転落したらとの思いがあり、柵を取り付けてくれるよう要望があったが、職員が見守ることで転落防止に対応している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強する場を設け、常に意識しながらケアにあたるようにしている。また、入浴時などは、身体観察も含め、不自然な痣等が無い報告しあっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員に対しての周知は、未だ十分ではないため、今後、勉強の場を設けたい。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所前に十分に説明をし、理解して頂き同意を得ている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に、ご意見ご要望箱を設置して、無記名でも、遠慮なく苦情も含め、要望等が出せるようにしている。また、ご家族が面会に来られた際には、十分に話ができるよう対応している。</p>	<p>家族が訪問したときに、管理者と職員が一緒になってゆっくり十分な時間をとり話を聞いている。出された意見は全体会議の中で話し合い対応を工夫している。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議等では言えない事も、夜勤帯等に時間を設け、個々に話をする機会を持っている。</p>	<p>職員からは提案型の意見が多く出されている。看護スタッフ採用の要望に対しては、11月より常勤として採用することが出来ていて、職員が自由に意見を言える雰囲気作りを心掛けている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>役職や責任のある仕事を任せることで、手当として支給し、更なるスキルアップを目指せるよう環境整備に努めている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スキルアップを目指す資格取得を支援する。外部の研修会等の参加も積極的に取り入れて生きたい。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>開設後、震災等もあり、なかなか思うように取り組むことができませんでしたが、今後積極的に取り組んで生きたい。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に、ご本人にお会いし、じっくりとお話を伺い、いろいろな提案をしながら、信頼関係を築けるよう対応している。</p>			
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の身体、精神的負担を少しでも軽減できるよう、いろいろな提案をしながら、信頼関係を築けるよう対応している。</p>			
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家庭を訪問し、環境も含め現状を把握し、本人や家族の希望にそったサービスができるかどうか、十分に話し合い、また情報提供にも努めている。</p>			
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人が出来る範囲で協力を求め、役割を持ってもらうことで、友に助け合いながら生活している意識を持つよう配慮している。洗濯物たたみ、食器拭き、食事の支度、お掃除等。</p>			
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えている関係を築いている</p>	<p>ご家族の負担にならない程度で、面会や行事への参加に協力をしてもらい、共に支える立場を築いている。時には、ご家族が食事の支度に参加してくれる。</p>			
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族や友人等の面会も、ゆっくりとすごせるよう配慮している。食事等も希望があれば、一緒に召し上がってもらう。</p>	<p>日に日に訪問してくださる方が増えている。食事を共にして貰い、くつろいだ雰囲気の中で、昔話などに花を咲かせている様子が感じられる。利用者が馴染みの場所に出かけたいときには出来る限り応じるようにしている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員ではなく、利用者同士でも助け合えるような関係を導いている。カーテン閉めや戸締まりなど。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も、時折電話や訪問をし、その後の介護の必要性等も含め、他サービス事業所と連絡を取り合っている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の生活れき等を十分に理解し、介護計画に取り入れている。</p>	<p>共有空間に利用者がいるときには職員が必ずそばにいて見守るようにしている。その中で利用者の表情や雰囲気把握するように心掛けていて、そのときの状況を申し送りするようにしている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご家族や、以前利用された介護サービス事業所との連絡を密にし、時には訪問し、どのような環境で過ごされていたのかを把握し、今後の計画につなげている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>職員が常に寄り添い、一緒に行動することで、一人一人のペースをつかみ、無理強いせず、リラックスして過ごせるよう配慮している。</p>		
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>職員が介護計画を十分に理解し、また、必要に応じては、変更の必要性が出てくることを意識し、モニタリングを通して、介護計画の変更等に反映させている。</p>	<p>利用者の状況を連絡帳に記録して情報の共有に努め、介護計画に反映している。その都度、柔軟に職員の意見や感想を活かすように努めている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録の記入の仕方等、職員同士、書きやすく、分かりやすくなるよう工夫している。さらに、カンファレンス時に情報の共有ができるよう確認している。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>可能な限り、家族の負担を軽減できるよう取り組んでいる。病院受診の付き添い等。また、外食や買い物等、個々の希望もなるべく取り入れている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事や活動にも積極的に参加している。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>普段は往診で対応しているが、治療方針や服薬が変わったとき等、本人や家族に説明し、同意を得てから治療に当たってもらう。</p>	<p>協力医との24時間連絡体制が整えられている。また、週1回以上の往診を受けている。11月からは看護師が常勤となり医師の指導のもとで対応している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>往診の際、適切に医師に状態を伝えられるよう、前もって準備している。また医療機関との連絡記録を記入し、職員同士の情報共有に役立てている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力医療機関に任せてはいるが、今後、どのような場合にも対応できるよう、医療機関との関係を密にしていきたい。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族が不安にならないよう、機能低下や病状悪化に伴い、当事業所で対応できなくなった場合、そうなる可能性がある段階で、家族との連絡も密にし、なるべく希望にあった方法での今後について検討している。</p>	<p>事前に本人や家族に十分な説明をおこない、判断して貰っており、文書での確認も行っている。日常的に主治医と連携を取り合い、本人や家族の希望に添うよう取り組んでいる。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>さまざまなケースでの対策を確立させ訓練へつなげたい。また、外部の研修会にも参加している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>事業所内の避難訓練だけでなく、地区の防災訓練への参加を予定。また、3月の震災時には避難地区になり、そのときの教訓を生かし、職員一人一人の意識も高く、常に準備している。保存食や水、毛布の確保。</p>	<p>東日本大震災の時には、職員同士の判断が優れていて、迅速な避難が出来た。日常の防災について地元区長との話し合いが行われ、ホームの協力担当者が決まることになっている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げられているが、常に人生の先輩として敬い、慈愛の心を持ってケアにあたっている。	一人ひとりを敬い寄り添って話し合い、呼びかけることで信頼関係を築いている。そのことが、利用者の尊厳を守りプライバシーの保護に結びついている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	さまざまな場面で、選択の機会を持てるようにしている。飲み物を選んだり、外出などの自由等。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々特別な事をするのではなく、~しようと言う言葉を引き出せるように、環境の整備に努めている。入浴も曜日が決まってはいるが、希望があればそのつど対応している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、訪問により、美容師のカットを受けられる。また、朝の身支度も、本人の希望や好みを取り入れ、選ぶ楽しみを感じてもらえるように配慮している。			
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事は、積極的に参加してもらっている。ときには、利用者の希望を聞き献立を変更している。	一日の生活の流れの中で食事が位置づけられていて、外出やレクリエーションなどを行うことで、食事の楽しみが倍加している。味への感想を言い合えたり、得意な分野を職員と一緒に行うことで達成感を味わっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は、常に記録に残し、足りない分を補えるようにしている。どうしても不足になる場合は、摂取しやすいように工夫を対応している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、居室にて口腔ケアをしている。義歯の洗浄等。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意が鈍くなっているも、トイレ誘導により、失禁を減らすよう取り組んでいる。また、オムツ使用の場合も、その日の体調により、トイレでの排泄につながる取り組みをしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握している。自立して行える利用者への見守りも欠かさず行って、仕草や表情から排泄の時間を読みとり、トイレへ誘導している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便観察により、状態や回数を把握し、便秘にならないよう配慮している。食事内容も、個々に対応できるものは変えている。			
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に曜日は決まっているが、希望があればそのつど対応している	本人の体調や意志を尊重し、状況に応じて楽しく入浴できるよう配慮している。入浴を拒むときには、言葉掛けやタイミングに工夫して、臨機応変に対応できている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、なるべくゆったりとした時間を過ごし、個々の状態にあわせて入眠へとつながるよう対応している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の服薬管理ファイルを作り、常に職員が把握できるようにしている。また、担当責任者を置くことで、状況を確認し医療機関との連携につなげている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を發揮できる環境を整え、活動できるようにしている。家庭菜園づくりや、お裁縫など。			
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的に散歩や、地区の商店街へ出かけ、地域の方と交流が持てるようにしている。	利用者と職員の意志疎通がスムーズで、車椅子の方も楽しく外出できるよう自然なかたちで支援している。日常、希望した日や場所に外出できるよう時間等を工夫している。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理においては、利用者さん同士のやり取りや、被害妄想などもあり、難しい問題があるが、買い物の際に、自分でお財布から支払うようにしている。</p>			
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>携帯電話を所持し、家族とのメールのやり取りのお手伝いをしたり、いつでも、電話の取り次ぎをして会話を楽しめるようにしている。</p>			
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>さまざまな活動が楽しくできるよう、用途に応じて場所を使い分けできるようにしている。観葉植物や、家具や絵画なども、昔風のものや、こころ安らぐものになるよう配慮している。</p>	<p>同じ趣味の利用者が、共有空間で共同作業できる雰囲気がある。自室と共有空間を自由に往き来出来る開放感が作られていて、職員がその中に自然にとけ込んでいる。採光、温度、湿度などにも心配りがみられる。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>家具やソファの配置を工夫し、他の利用者に気兼ねなく、気のあった利用者同士で過ごせるようにしている。</p>			
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室でも、居心地良く過ごせるように、自宅からの愛用品を持ってきてもらっている。家族の写真を飾ったり、製作作品を飾ったりしている。</p>	<p>馴染みの物を持ち込んだり、家族の写真を置いたり、花を飾ったりして利用者同士や親しい人を招けるような部屋作りをしている。入居前の自分の部屋と出来るだけ変わらないように工夫している。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーは勿論の事、トイレの目立つ表示や、居室入り口のシンボルなど、自分で行動できるよう配慮している。</p>			